

平成 22 年度第 4 回 IODP 部会執行部会議事録(案)

日時:2010 年 10 月 21 日(木)14:00~18:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席予定者:

執行部:山崎俊嗣(産業技術総合研究所)、安間 了(筑波大学)、芦 寿一郎(東京大学)、
池原 実(高知大学)、沖野郷子(東京大学)、坂本竜彦(海洋研究開発機構)、
高澤栄一(新潟大学)、林 広樹(島根大学)、平野直人(東北大学)、松本 剛(琉球大学)、
森田澄人(産業技術総合研究所)、山本正伸(北海道大学)

オブザーバー:

文部科学省海洋地球課:柴田晋吾、倉本真一、酒井佑介、肥田慎二
海洋研究開発機構:星野利彦
事務局:菊田宏之、藤森英俊、梅津慶太

欠席予定者:末次大輔(海洋研究開発機構)、山本啓之(海洋研究開発機構)

議事次第(案)

1. プログラムリニューアルについて[山崎部会長]
 - ・SAS・国内専門部会改組 資料 1
2. JAMSTEC 地球掘削科学推進 PT との合同会議報告[山崎部会長] 資料 2
3. IODP 掘削航海関連[事務局] 資料 3-1~3-5
 - ・今後の航海スケジュール
 - ・乗船研究者募集について
4. IODP 国内支援[事務局]
 - ・IODP 乗船研究費
 - ・IODP プロポーザル作成支援
5. J-DESC 法人化について[森田委員、芦委員、山崎部会長]
6. J-DESC 活動
 - ・体制について[山崎部会長]
 - ・会計報告[平野委員] 資料 4
 - ・J-DESC ニュースレター vol. 4[事務局] 資料 5
 - ・J-DESC レクチャー&サイエンススクール[事務局、坂本委員]
 - ・日韓合同掘削プロポーザル WS 報告[松本委員] 資料 6
7. その他
 - ・次回開催日

配布資料

- | | | | |
|--------|--|------|-----------------------------|
| 資料 1 | New SAS Term of Reference | 資料 4 | J-DESC 収支計算書(4/1~9/30) |
| 資料 2 | J-DESC-JAMSTEC 合同会議議事メモ | 資料 5 | J-DESC ニュースレター Vol. 4 コンテンツ |
| 資料 3-1 | IODP 航海スケジュールマップ(FY11-12) | 資料 6 | 日韓ワークショップ@沖縄実施報告書 |
| 資料 3-2 | 乗船研究者リスト(Exp. 332~336) | | |
| 資料 3-3 | オンライン乗船申込ガイドライン | | |
| 資料 3-4 | Call for Participation in Exp. 337 | | |
| 資料 3-5 | Call for Participation in Med. Outflow | | |

議事録(案)

1. プログラムリニューアルについて[山崎部会長]

・SAS・国内専門部会改組.....資料 1

山崎部会長より説明がなされた。

- ・ PEP の議長について、必ずしも日米で決まった順番でまわす必要はなく、能力を重視することには同意する。選考に関して資金貢献応分の権利を持つことが必要。50%以上のエフォートをさける人材をアサインすることができる制度を整備することを文科省にお願いしたい。
- ・ 50%以上のエフォートをさける人材が出せる環境を作ることが難しい。

酒井氏よりコメント

- ・ 2重に給料をもらうことについて、法律上は独立行政法人、国立大学法人、私立大学に所属している人であれば、内規に抵触していない限り可能。公立大学のうち、地方公共団体が設置している大学(いわゆる地方公務員としての身分)の場合は不可。

合意項目 (101021-01) : 1) PEP の ToR にある Logistical support の部分が日本から議長を出した場合のインセンティブになるような書き方にしてほしい (ToR にある PEP 議長の給与に関することは日本のシステムには合わないため)。2) 議長は委員とは独立して選出されること、PEP 委員についても各国の資金貢献に応じた委員数(権利)を明記するべき。3) SEA の議長の選出方法を明記してほしい。以上を ToR (案) への J-DESC からのコメントとする。

倉本氏よりコメント

- ・ ToR に書くことではないかもしれないが、プロポーネントが評価の場においてプレゼンを行う機会が等しくあることは必要なのでは？

合意項目 (101021-02) : プロポーネントが評価の場に居合わせること(プレゼンを行うこと)について引き続き議論が必要である。

2. JAMSTEC 地球掘削科学推進 PT との合同会議報告[山崎部会長].....資料 2

山崎部会長およびより標記の件について報告がなされた。

- ・ PT は JAMSTEC として深海掘削計画を推進するかを検討するチーム。
- ・ 合同会議は今後の掘削科学をオールジャパンとしてどのように進めていくかを検討する会合であった。
- ・ 内容としては達成すべきサイエンスと「ちきゅう」をどのように利用していくかについて話し合った。
- ・ その結果、双方(JAMSTEC、J-DESC)一定の合意を得た(内容は山崎部会長の報告)。
- ・ 文科省にオールジャパンとしての意見を伝え、今後、国としてどうしていくかが審議される。
- ・ New Science Plan は Executive Summary の改定にまではまだ手がついていない。
- ・ NSP の位置づけとして、現行の ISP と同様なバイブル的なものではないことは合意されているはず(大河内氏より)。
- ・ 今後も実施される見込み。

柴田企画官よりコメント

- New Science Plan との関連性についても検討していただいている。
- 「ちきゅう」の利用について、JR と役割分担をはっきりさせるためにも
- 水と炭素循環に関するパラダイムシフトにつなげるという大きなテーマを掲げている。その中にモホールをはじめいくつかの柱がある。
- 今後は、今年度中に何らかの報告書を作成し、最終的には海洋開発分科会でオーソライズされるという道筋を想定している。

3. IODP 掘削航海関連[事務局] 資料 3-1~3-5

事務局より標記の件について報告がなされた。

•今後の航海スケジュール

ちきゅう:Exp. 337 (2011/3/15~5/21)、Exp. 338 (2011/8~最長 5 カ月)

JR:Exp336 の後、Mediterranean Outflow (2011/11/20~2012/1/20)

•乗船研究者募集について

- Exp. 337 の乗船者募集を昨日から開始 (11/30 まで)
- Exp. 338、Mediterranean Outflow の募集は 11/1 から開始予定 (〆切はそれぞれ 1/31、1/3)

4. IODP 国内支援[事務局]

事務局より標記の件について説明がなされた。

•IODP 乗船研究費(乗船後研究費)

- 支援の仕方・制度を検討するのに時間がかかっていた。
- ようやく制度化に向けて動き出した。今年度中に制度を立ち上げることを JAMSTEC 内で合意した。
- 制度ができるまでの間(今年度)は、部分的な支援として行うことが可能。
- 制度を立ち上げるのに先立ち、どのような事項に研究費を使用したいかについてヒヤリングを行うことを考えている(1 か月以内)。

委員からのコメント

- 分析の前処理のための謝金や人件費に使えると有効(池原委員)。
- 一刻も早く対象となる乗船研究者に直接ヒヤリングを行い、実施できる支援は行うべき(坂本委員)。

•IODP プロポーザル作成支援

- こちらに関しても同じような制度で行うことを検討している。
- 今年度については、要望を受け付けて JAMSTEC 内での手続きにより支援を行う。
- 応募の見込みがある提案者に対して事務局側からコンタクトをとり、支援を行う。

5. J-DESC 法人化について[森田委員、芦委員、山崎部会長]

芦委員より標記の件について説明がなされた。

- 地質学会の法人化に貢献された藤本さん(東京学芸大)に有識者オブザーバーとしてワーキンググループに入っていただくことを了承いただいた。

- ・ 陸上掘削部会からは佐藤部会長と井龍部会長補佐がアサインされた。
- ・ 地質学会に比べればそれほどハードルは高くない。
- ・ インターネットで勉強することができる。
- ・ 地質学会の事務局の方や倉本氏に話を聞いてみると良いかもしれない。
- ・ 来年度の総会に法人化に関する方針を打ち出す(その直前には両執行部で案を提示)。
- ・ 法人化のメリットの一つは社会からの認知度(森田委員)。

実行項目 (101021-03) : 佐藤部会長に調査・議論を進めてもらうように要請する。実行者: 山崎部会長

6. J-DESC 活動

- ・ 体制について[山崎部会長]

標記の件について山崎部会長より説明がなされた。

- ・ 斎藤会長は今期限りとして会長を継続していただいている。
- ・ 次期会長を選出するに当たり、会長が果たす役割を再考するべきと考える。
- ・ 法人化すれば、法人の最高責任者としての役割になり、現在とは違ったものになる。それを想定した上で人選をする必要がある。
- ・ 執行部で案を作り、幹事会で承認するという仕組みになっている。この決定事項が会長ないし理事会に報告する仕組みが必要。

合意項目 (101021-04) : 法人化を前提に会長を引き受けていただける人を探すことが必要。執行部・幹事会での決定事項を理事会や会長に自動的に伝える仕組みを作る必要がある。

- ・ 会計報告[平野委員] 資料 4

平野委員より標記の件について説明がなされた。

- ・ 会員提案型活動経費は 2 件が執行済み
- ・ 微化石、古地磁気、泥水の一部が執行済み
- ・ 会計処理作業は問題なく行っている

- ・ J-DESC ニュースレター vol. 4[事務局] 資料 5

事務局より標記の件について説明がなされた。

合意項目 (101021-05) : ニュースレター Vol. 4 のページ構成は、航海報告: 2 ページ、Program Renewal/NSP: 1 ページ、モホール関連(宣伝的なもの): 0.5 ページ、泥水コース: 0.5 ページとする。

実行項目 (101021-06) : 航海報告の執筆者を選出する。実行者: 林委員、事務局

- ・ J-DESC レクチャー & サイエンススクール[事務局、坂本委員]

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 現在の講師登録数は 9 名

実行項目 (101021-07): レクチャーの講師登録を執行部外にお願いするとともに、派遣の申し込み受け付けを開始する。派遣申込の申込メ切に関して、期限についてのホームページの記述を改訂する。実行者: 事務局

実行項目 (101021-08): サイエンススクールの実施方法について具体的に検討する。実行者: 坂本委員 (次回会議まで)

・日韓合同掘削プロポーザル WS 報告[松本委員] 資料 6

松本委員より標記の件について説明がなされた。

- ・ 10 月 11, 12 日に沖縄にて実施。会員提案型活動経費により支援された。
- ・ 日本、韓国のほか、台湾の研究者が参加。
- ・ 「ちきゅう」の見学を行った (12 名が参加)。
- ・ プレ・プロポーザルを来年の 10 月のメ切を目指して執筆を開始した。
- ・ 次回のワークショップは 2011 年春に KIGAM (韓国) で実施予定。

・JpGU 地球掘削科学セッション

沖野委員より標記の件について説明がなされた。

- ・ コンビナーは IODP 部会から沖野委員、陸上部会から井龍部会長補佐、微生物分野として鈴木庸平氏 (産総研)、南海掘削関係として金松氏 (JAMSTEC)、事務局から梅津。

7. その他

・Post-IODP プログラムのネーミングについて

- ・ AGU で新しい名称を発表する予定。
- ・ アメリカでは Drilling という言葉は使いたくないようで、International Ocean Discovery Program (IODP) にタグラインをつける案を推している
- ・ 何か良いアイデアがあれば出してほしい。

・次回開催日

11 月中旬～12 月中旬の間で開催。